



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/6 (月)	+ 600	+ 6,200	+ 6,800	国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 58,500 CP等買入 ▲ 100	国債買入 + 15,900	
2/7 (火)	+ 1,000	+ 4,000	+ 5,000				日: 景気先行CI指数 (12月) 米: 一般教書演説 パウエルFRB議長の講演 貿易収支 (12月)
2/8 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)	共通担保 (全) ▲ 5,800		日: 貿易収支 (12月)
2/9 (木)	▲ 2,000	+ 7,000	+ 5,000				
2/10 (金)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000	国債発行 (物価連動)			米: 財政収支 (1月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は気候変動対応資金供給オペ等により週初前営業日比+2兆3,200億円の522兆6,000億円から始まった。その後は国債発行や税保険揚げ等により512兆3,000億円まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は前営業日比横ばいの△0.014%から始まった。その後もオファービッドとともに大きな動向の変化はなく△0.014~△0.013と横ばい圏での推移となった。3日積みとなる2月3日は一部ビッドサイドの調達意欲の強まりも見られ、前営業日比+0.001%の▲0.012%で越週した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.030%~△0.010%の水準で出合いが見られた。

来週以降の主な予定は、国内で7日に景気先行CI指数の公表、8日に貿易収支の公表などがあり、海外では7日に米大統領の一般教書演説やFRB議長の講演などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### <レポ>

足許GC取引は▲0.095%から始まり、週後半にかけて▲0.105%まで低下した。SC取引は2年435~444回債、5年146~155回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約4,800億円で、週間償還額 (約4,300億円) を上回った。発行市場は一部で大型案件が見られたものの、発行社数は限定的であり落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末時点の28兆4,416億円から2日時点で27兆8,151億円に増加した。今週は期内物の発行が中心であり、発行レートは概ね落ち着いていたが、発行残高の積み上がりが見られる一部の銘柄ではレート水準の高止まりが見られた。

来週の週間償還額は、約6,400億円となっている。発行市場は概ね償還と同程度の発行を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。8日にCP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

### <TDB>

2月3日の3M (1136回債) の入札は、最高落札利回り△0.1489% (前回債△0.1414%)、平均落札利回り△0.1589% (前回債△0.1548%) となった。来週は9日に6M、10日に3Mの入札が予定されている。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.02